

## 平成 28 年度 薬学と社会教科担当教員会議 議事録

日時：平成 28 年 11 月 12 日（土）13：30～17：30

場所：昭和大学 旗の台キャンパス 16 号館 2 階

出席者：70 名（国公立大学 8 名、私立大学 54 名、当番校関係者 7 名および厚生労働省関係者）

1. 担当校である昭和大学薬学部の赤川圭子先生より開会の挨拶および会議資料の確認があり、続けて同大学薬学部長 中村明弘先生より歓迎の挨拶があった。その後、委員長 中村武夫（近畿大学）より、会場を準備いただいた昭和大学薬学部関係者、多忙な折にも関わらず出席いただいた厚生労働省関係者、各大学からの委員の先生方への御礼並びに挨拶がなされた。
2. 「最近の薬事行政について」と題した講演が紀平哲也氏（厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 医薬情報室長）より行われた。まず人と社会に関わる薬剤師に関して、業務種別薬剤師数の現状から薬剤師の活躍する場は薬局や医療機関だけでなく医薬品の製造販売業・製造業、衛生行政機関、大学にも及んでおり、薬学部 6 年卒業時に必要とされる 10 の基本的な資質と関連付けて薬剤師の役割について述べられた。薬剤師と医薬品等に係る法規についてには薬事制度の変遷について薬害と関連づけながら、また昨今の一般用医薬品の販売制度の見直しに至るまで分かり易く説明された。社会保障制度と医療経済については、まず人口構成の変遷と社会保障給付費、財源別国民医療費の内訳から社会保障改革の流れについて説明された。さらに地域包括ケアシステムの姿についても触れられた。地域における薬局と薬剤師については医薬分業率、薬局数や処方箋枚数の推移について説明され、薬局における調剤業務の変化が第一世代から始まって第五世代に至っていることについても説明された。昨年 10 月に公表された患者のための薬局ビジョンに関しては、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局のあり方等の今日の薬局に求められている役割について明確に説明いただいた。質疑応答においては、患者のための薬局ビジョンにおけるかかりつけ薬剤師・薬局の本来のあり方と現状との矛盾について、薬局で従事する薬剤師が過半数以上を占める中でかかりつけ薬剤師や健康サポート薬局をどの程度の割合まで目指しているのか等について、活発な討論がなされた。
3. 「薬学と社会」分野における各大学の取り組み紹介が行われた。まず出欠回答と同時に実施した薬学と社会分野における実施内容や特徴に関するアンケート調査結果について、赤川先生（昭和大）より報告があった。各大学の実施内容・方法をある程度把握することができた。続いて、5 大学より当該校における取組事例について紹介があった。鈴鹿医療科学大学からは、初年次教育の中でアイスブレイキングを活用したコミュニケーション教育や特別養護老人ホームでのボランティア体験の実施といった社会との関わりの実践について紹介いただいた。星薬科大学からは「A.基本事項」および「B.薬学と社会」の新モデル・コアカリキュラムへの移行について予定を含む現状と課題について報告があった。SGD の実施や SGD 評価、OBE (Outcome Based Education) への取組みと関連したらせん型カリキュラムの実施における薬剤師に求められる基本的な資質やディプロマポリシーとの関連についての課題について報告いただいた。武蔵野大学からは科目連携についての紹介があった。化粧品学総論における化粧品や薬用化粧品の関連法規との関連、医薬品開発・医薬品情報学における医薬品添付文書の活用と関連法規との関連について詳細かつ具体例を挙げて紹介いただいた。安田女子大学からは生命倫理および社会保障について、DVD 教材の活用、自主的 SGD や研究発表による取組事例について紹介いただいた。昭和大学からは、法規や制度に興味を持って取り組むための工夫として、医療系総合大学、初年次全寮制教育およびチーム医療教育といった特徴を活かした学部間連携、物語と対話に基づく医療(Narrative Based Medicine :NBM)教育の連続性について、オリジナル映像教材作成、学部連携 PBL チュートリアルの実施、また NBM 教育と法規・制度の科目間連携の具体的実施例を紹介いただいた。質疑応答では、SGD に対する評価についてチェックリスト、ピアレビューまたルーブリック導入による評価等について活発な意見交換があった。また

特徴的な取組みとして、長崎大学における離島実習の実施についての紹介もあった。それぞれの大学が特徴を活かした「B.薬学と社会（A.基本事項を含む）」分野における取組事例紹介は、実施可能か否かを問わず、各大学の教科担当者にとっては有益なものであった。

4. その他として、新委員長の鈴木順子先生（北里大）の紹介があり、挨拶をいただいた。その後、担当校を代表して倉田なおみ先生より閉会の挨拶があり、情報交換会への案内を赤川先生よりいただき、定刻を少し過ぎて会議を閉会した。